

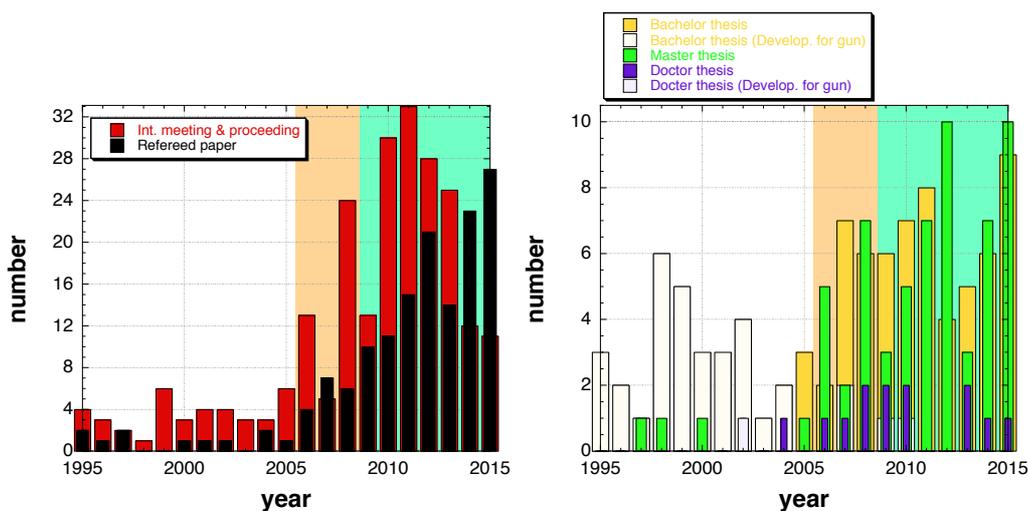
# 2015年度の宇宙研超高速衝突実験設備の現状

長谷川直（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所）

1年前の2014年に宇宙研の衝突施設の紹介を行ったが、今回はそれから更新された案件を紹介する。

## 1) 施設に関連した実績について

2015年の査読論文数は過去20年間中最高になった。これは通常の査読論文掲載に加え、遊星人に衝突特集号が生まれ、その中で本施設を利用した査読論文が多数掲載されたことと、同様にHVISの査読付き論文が同様に多く掲載された事に起因する。



## 2) 組織について

衝突実験施設の今後行うべき事として、これまでの実験装置の維持・管理・開発のみでなく、コミュニティーをまとめ上げ、新しい成果を創出する源となる研究コーディネーターも柱の1つにするべきではあると考えている。但し、これの実現の為には、現在の衝突施設のJAXA内の組織的な問題がある実現が難しいところがある為に、宇宙研内の適切な組織配置をお願いしているところであり、上層部に働きかけ、来年度初めには適切な組織の実現を目指している。

## まとめ

宇宙研の衝突施設はただ施設運用だけでなく、科学的成果の創出を目指している。その実現の為に、宇宙研内の適切な組織配置を実現すべく、現在鋭意努力している。